



▼豊かな自然や地域資源の特徴を生かした特産品で本町の魅力を広くPR



本町の資源を生かした特産品

甲佐ブランド「こうさんもん」認定書授与式

4月3日（金）町役場で、「こうさんもん」認定書授与式が開催されました。

「甲佐ブランド『こうさんもん』認定制度」とは、本町の豊かな自然環境から生まれた地域資源の特性や魅力を生かした町を代表する特産品を作り、農商連携の推進や交流人口の増加を図ることが目的。町内で生産または加工された食品や工芸品などを、専門家で構成する審査会の審査を経て認定するものです。

3月に開催された「こうさんもん」認定審査会で新規認定4品、認定更新3品の全7品が認定されました。新規は甲佐町商工会の「二ラ侍」、パン工房ふうさんの「和風ニラでスープ」、（資）池田製菓舗の「井戸江狭万十」と「マシユマ口鮎の里」。更新は（有）守口屋の「鮎の甘露煮」、大栄ファーム（高田精肉店）の「にらメンコ」、パン工房ふうさんの「あゆもなか」です。

認定品について、奥名町長は「町外だけでなく県外にも本町の魅力を広くPRしてほしい」と話しました。

宮内の自然の中で学ぼう

甲佐小3年生がサツマイモ植え体験

5月15日（金）西原で、甲佐小学校（赤星法真校長172人）の3年生（浦部謙太郎教諭27人）がサツマイモ植え体験をしました。

この体験は、山間地の耕作放棄地を活用して、児童たちに農作業を通して自然との触れ合いを持ってもらうことを目的として宮内炭窯生産組合（西村彰組合長）が実施。地域住民などの指導の下、児童たちは汗を流しながらサツマイモの苗を優しく丁寧に植えました。

児童たちは、植え付けを終えた畑を眺めながら「秋の収穫が楽しみです」と話しました。



▲宮内地区の住民の指導の下、イモの苗を植え付ける児童



▲草花の特徴を学びながら清正公山を散策

里山で春の訪れに触れる

4月26日（日）清正公山自然観察会

4月26日（日）清正公山で自然観察会「えいさほいさと清正公山を散策しよう」が開催されました。

同観察会は、本町の自然環境に触れ、里山・里山を散策し季節の草木や花を学習することを目的に、2月に開催された『新甲佐町史』研修会の第2部として自然観察指導員熊本県連絡会が主催、町教育委員会が後援。『同史』生物編担当の中田裕一さんを講師に迎え、約30人が参加しました。

参加者たちは、里山を歩きながら自然を観察。中田さんから指導員から草花の歴史や特徴を学びながら清正公山の豊かな自然に触れ、春の訪れを感じました。

ルールとマナーを守ろう

春の全国交通安全運動街頭キャンペーン

5月11日（月）岩下の国道443号沿いの熊本バス車庫前で、春の交通安全運動の街頭キャンペーンが開催されました。

同キャンペーンは、毎年春に実施される同運動〔5月11日（月）～20日（水）〕の一環として実施。町の交通安全関係者や御船警察署などが参加。通行する自動車の運転手などに、交通事故防止や飲酒運転の撲滅、運転中の携帯電話の使用禁止など、交通ルールとマナーの厳守を呼び掛けながら、交通安全を啓発するパンフレットなどを配布しました。



▲交通安全グッズなどを運転手に手渡し安全運転を啓発



▲地域住民からソラマメの収穫の方法を学ぶ児童

地域ではぐくむ児童の心

乙女小「まつやま塾」で収穫体験

5月15日（金）乙女福祉ふれあいセンターで、乙女小「まつやま塾」のソラマメの収穫体験が行われました。

同塾は、放課後に地域住民の参加協力を得て自然に触れる体験学習などに取り組み、地域社会で児童たちをばくむことを目的に、町教育委員会が主催。主に水・金曜日に、同センターを中心に活動しています。20人の児童が参加した今回は、同小周辺の山里を季節の植物の名前や特徴を地域住民に教わりながら散策。11月に植え付けたソラマメの収穫を体験しました。

参加した児童たちは、「たくさん取れてうれしいです」と大収穫の喜びを笑顔で話しました。

みんなで守るきれいな緑川

4月29日（祝・水）「緑川の日2015」一斉清掃作業



▲田口橋周辺の河川敷では、子どもから大人まで地域住民が清掃活動に参加し、紙くずや空き缶、たばこの吸い殻などのごみを回収し分別

4月29日（祝・水）緑川流域など町内各地で、「緑川の日2015」一斉清掃作業が行われました。

緑川などの自然環境の保全に関して、住民や企業、行政機関、学生などが連携して取り組み豊かな自然を守りながら清掃を通して交流を深めることを目的として、甲佐町緑川流域美化活動推進協議会（境国嗣会長）が主催。地域住民や児童生徒、ボランティアなど2,412人が参加して、ごみ拾いや清掃作業などに取り組みました。

早朝から行われた清掃活動は、緑川河川敷など町内各地で実施。同日、安津橋健康広場で開催された第1回「緑川スポーツフェスタ in こうさ」でも、同イベント参加者やスタッフなどが協力してごみを回収しました。参加者が各地で回収・分別した紙くずや空き缶・空き瓶、たばこの吸い殻、不法投棄された家具、家電などのごみは、中甲橋グリーンパークに集められ、甲佐中学校（加藤敬之校長250人）や甲佐高等学校（山下由美校長136人）の生徒のボランティアによって再度分別されて処分。町内全体で、約2,270kgを回収しました。